

サークル装う勧誘 注意を

県内の大学で近年、サークルを装った新興宗教とみられる団体の勧誘活動が顕在化していることから、愛媛大など大学側が対策に乗り出した。他県では大学生を標的にした

反社会的カルト集団の活動実態も明らかになっており、同大は「信条や宗教に関することを問題としているのではなく学生の人権や心身の安全を守るため」の対策と位置付けている。

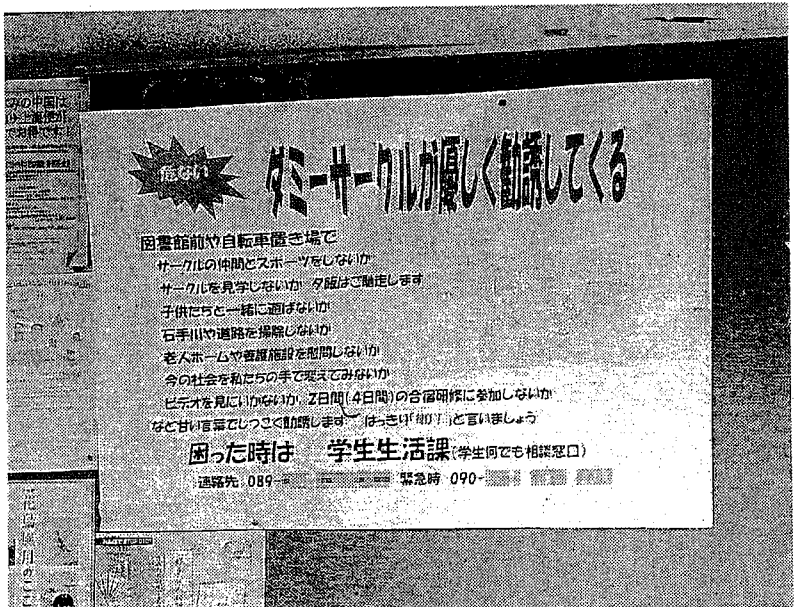
県内大学

カルト対策に本腰

県内の大学関係者によると、近年、キャンパス内で複数の団体がボランティアや国際交流のサークルを装い、新入生を中心に勧誘を行うケースが後を絶たない。中には夏季休暇中に研修と称して長期間、共同生活を送らせ、不審に思った保護者が大学に問い合わせた事例もあったという。カルト問題に詳しい松山東雲女子大の高木総平教授は、マインドコントロールや目的を明らかにしない問題のある勧誘などを行う複数の反社会的カルト集団が県内で活動していると指摘。「オウム事件で社会問題化したカルトが大学に回帰しつつある。公共施設で集会を開くなど活動や勧誘方法が巧妙化し、注意が必要」と警告する。

愛媛大は勢 全学態勢 研修会や啓発チラシ

勧誘するサークルはありません」と、掲示するなど、予防策を取る大学が増えている。高木教授は「安心できるはずのキャンパスで、学生の人格を破壊するようなカルトの活動を放置することは大学の責任問題にもなりかねない。愛媛大の組織的な取り組みは画期的で、全国的なモデルになる」と話している。



サークルを装った勧誘に注意を促す張り紙
—松山市文京町の愛媛大城北キャンパス